

運輸区 とうぼう 第四十八号

蘇我運輸区

醍醐栄さん、お疲れさまでした！



5月7日（月）ラストラン、無事終了！

蘇我運輸区車掌の醍醐栄さんが、来月6月末日の定年退職を前に、最終乗務を無事終えました。113行路、最後の10

35Yは、習志野から便乗ということで、若い社員からは「本務であってほしかったですけど・・・」という声もありましたが、

うたてつ ノスメ36

ハートブレイクトレイン（オリーブ）1970年9月

シュルルルル・・・
シュルルルル・・・
悲しみを ルル 抱きしめて
汽車は行く シュルル・・・
何処までも シュルルル・・・
思い出も今はなく
面影も 消え果てた
この僕にあるものは
一枚の一枚の 片道切符だけ

シュルルルル・・・
シュルルルル・・・
ガタゴトと ルル 揺れるたび
悲しみが シュルル・・・
薄れてく シュルルル・・・
山を越え 谷を超え
河を超え 野を超えりゃ
ばら色の幸せが待っている
待っている この僕一人だけ

ガタゴトと ルル 揺れるたび
悲しみが シュルル・・・
薄れてく シュルルル・・・

揺れるたび、悲しみが薄れてく」は大好きなフレーズ。これに「シュルル・・・」が加わり、寒々とした情景と涙も見えてしまう。名曲！

昭和40年代後半、雨後の竹の子のごとく出てきたグループサウンズ（以下、GS表記）のひとつで、これは寄せ集めで作られたブーム最末期の5人組。当時、レコードデビューを果たしたグループだけでもほんの短い数年間で、200近くのGSがひしめいていたというブームどころではない狂乱の時代であったようだ。

以前にも書いたが、GSの鉄道ソングは4つあり、今回はその2曲目。超マイナーな存在だが、すごく良い曲なので、是非何処かで見つけて聴いてほしい。

終始使われる「シュルルル」という擬音が、汽車の霧笛気を出している。「思い出」「面影」が誰に対するものなのか、明確にはされていないが、おそらくは失恋ソングだと思う。鉄道ソングの定番？失恋による逃避行・・・ってやつか。

片道切符で汽車に乗り、山を越え・・・野を超えた先には「ばら色の幸せが待っている・・・はず」と、自分に言い聞かせ、その新しい地で、何もかも忘れてやり直すんだという決心が伺える。「ガタゴトと

ほっとひと息、ホームに降り立った時の表情は、今までにないほど晴れ晴れとしていました。

ちなみに1035Yの本務車掌は、やはり来月退職の鈴木でした。「醍醐さんのラストランに泥を塗ることがないよう、昨日から神経をすり減らした。でも早閉め危機一髪があって焦ったぜ・・・と鈴木の弁・・・やれやれ。

仕事も遊びも全力！！

持ち前の明るいコミュニケーション力で、職場内でもそれ以外でも常に中心となり、皆をまとめてきたように思います。

また、旧蘇我運輸区時代には長く副会長も務め、組合活動にも活躍されてきました。

この後は、仕事をぼちぼち探しながら、奥様とのんびりしていくそうです。

長い間、お疲れさまでした。ありがとうございました。お互い健康第一で、やわやわ〜っとね！

